

I. みちビジョンの概要

1. 基本理念

道路は、人や物の円滑な移動や、火災時の延焼を防ぐなど、様々な機能をもった基本的な社会基盤です。これまで、道路整備は経済の発展や市民生活の向上に大きく貢献してきました。

ところが、近年、道路を取り巻く社会経済情勢は、人口減少・超高齢化社会の進展に伴う税収の減少や社会保障費の増加による財政制約、自動車交通量の減少並びに道路ストック^{*})の急速な老朽化など様々な問題が山積し、道路の新設・改築や管理に対する考え方について大きな転換期を迎えています。

「明石のみちビジョン」では、未来永劫変わることのない道のあるべき姿として「**時を超え、人をつなぎ、まちを支える道**」を基本理念とし、市民の皆様と市が、この基本理念を共有して、一緒に道を使い・守り続けていくことを目指します。

<みちビジョンの基本理念>

～時を超え、人をつなぎ、まちを支える道～

時を超える道

先達が築き上げてきた道路を大切な資産として、上手に賢く使いながら、次世代、そのまた次世代へと時を超えて引き継いでいくものとします。
真に必要な道路を見きわめて、的確な維持管理更新により、道路をずっと使い続けます。

人をつなぐ道

道路は、人々の暮らしや物流をはじめとした経済・産業活動を支え、人と人、地域と地域をつなぐだけでなく、救急搬送、消火活動、火災時の延焼防止並びに災害時の避難、緊急物資輸送など人の命をつなぎます。
歩行者や自転車など自動車以外の利用者も含むすべての利用者が安全に安心して通行できる道路空間を確保して、人と人、地域と地域、さらには人の命をつなぎます。

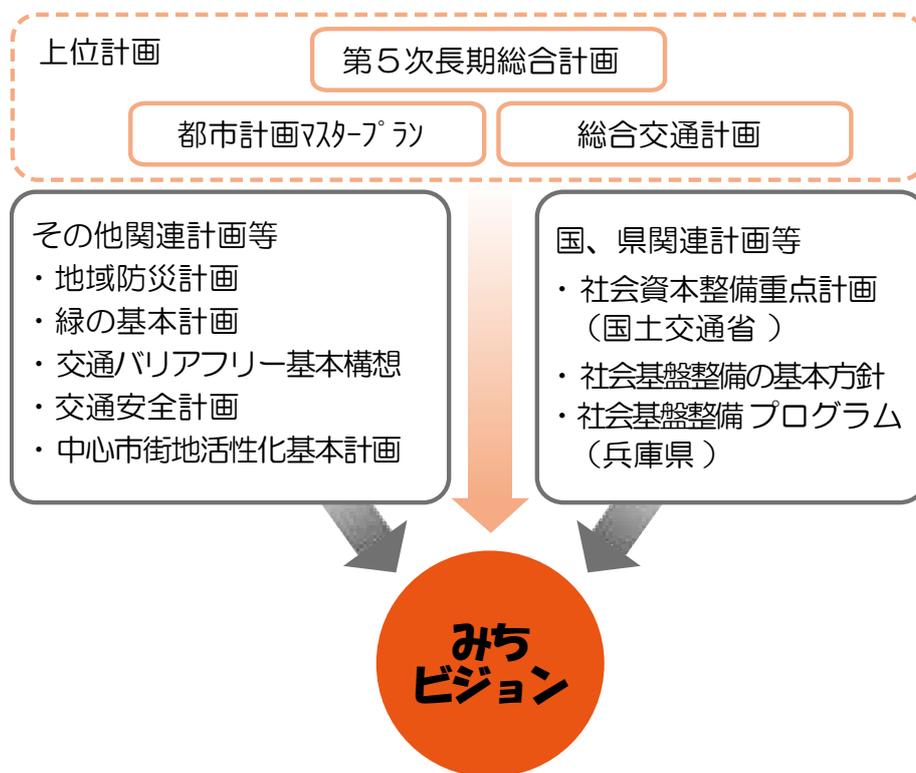
まちを支える道

道路は、人体に例えると血管のような役割を果たし、まちのにぎわいや活力を創出して元気で魅力あるものにします。
人口減少、少子高齢化社会に対応したまちづくりの実現や、環境負荷の小さい低炭素社会、循環型社会の実現など、これからのまちづくりを支えていきます。

2. 位置付け

「明石のみちビジョン」とは、これからのまちの姿を展望しつつ、中長期を見据えた道のあるべき姿についての考え方を示し、10年後の道の将来像と概ね10年間にわたる道づくりの基本的な方針を示すものです。「みちビジョン」は、「第5次長期総合計画」、「都市計画マスタープラン」、「総合交通計画」を上位計画とし、「地域防災計画」、「緑の基本計画」など明石市の計画や、国や県の関連計画などを踏まえて策定しています。

〈みちビジョンの位置付け〉



3. みちビジョンの内容

「明石のみちビジョン」では、「時を超え、人をつなぎ、まちを支える道」の基本理念をもとに、中長期の道のあり方を視野に入れながら、概ね10年後の道の将来像とその実現に向けての視点を整理し、基本方針と施策の展開方針を示します。

実行計画およびプログラムについては、地域の皆様と話しあいながら、ニーズをくみ取り、今後示していきます。

<みちビジョンの内容>

